

多摩川中流のかつての田園地域における
希少植物の生育確認調査

2006年

星野 順子
東京環境工科学園 非常勤講師

目 次

1. 調査・試験研究の背景及び目的	1
2. 現地調査、観察会及び同定講座の日程	1
3. 調査対象地域	2
4. 現地調査尾及びとりまとめの方法	2
5. 結果及び考察	2
6. 植物分類同定講座	5
-参考文献	6
確認植物目録	7

研究成果報告

『多摩川中流のかつての田園地域における希少植物の生育確認調査』

1. 調査・試験研究の背景及び目的

東京の近郊として田畑や雑木林などに恵まれた多摩川中流域であったが、近年宅地造成などによりそれらの面積は急激に減少している。このような田園景観の消失によって水田や水路を主な生育地とする植物も著しく減少し、全国レベルで見ればまださほど減少していないものであっても、多摩川流域では絶滅の危機に瀕している植物達も多いものと思われる。

本調査では、急速に減少している多摩川中流域の水田や水路などにみられる植物に着目し、その現状を記録、結果を公表することを目的とした。

同時に、観察会への参加を市民や学生の方たちに広く呼びかけ、その場で調査、観察したことの「証人」となってもらい、多摩川中流域における身近な自然環境の現況と重要性について考えてもらう機会とした。

また、専門家による分類同定講座などを実施し、シダ植物、スゲ属植物など分類・同定の困難な分類群について識別能力を高めることも目的とした。

2. 現地調査、観察会及び同定講座の日程

現地調査及び観察会は平成16年4月より平成17年11月まで、月1, 2回程度の頻度で行った。また分類同定講座は、計3回行った。

日程は以下のようなものである。

- ・平成16年4月10日(土) 府中市四谷周辺(観察会)
- ・平成16年5月8日(土) 多摩川土手(国立市～府中市)(観察会)
- ・平成16年6月20日(日) 調布市上石原
- ・平成16年7月3日(土) 谷保神宮～ママ下湧水周辺(観察会)
- ・平成16年8月5日(木) 府中市若松町
- ・平成16年9月2日(木) 府中市分梅町
- ・平成16年9月19日(日) 府中市本町
- ・平成16年10月11日(土) 府中市小柳町
稲城市百村(分類同定講座)
- ・平成16年11月13日(土) 府中市是政(観察会)
- ・平成17年4月10日(日) 府中市小柳・押立町、四谷
- ・平成17年4月21日(木) 府中市南町
- ・平成17年4月30日(土) 府中市南・矢崎・本町、是政(観察会)
- ・平成17年5月3日(火・祝日) 府中市矢崎町、是政

- ・平成 17 年 5 月 9 日(月) 府中市分梅・住吉町
- ・平成 17 年 5 月 22 日(日) 府中市分梅・住吉・南・日新町、四谷(観察会)
- ・平成 17 年 5 月 27 日(金) 国立市泉町、府中市四谷、日新町
- ・平成 17 年 9 月 23 日(土) 国立市谷保(観察会)
- ・平成 17 年 10 月 15 日(土) 高尾山(分類同定講座)
- ・平成 17 年 10 月 30 日(日) 調布市多摩川、下石原、飛田給、府中市押立町
- ・平成 17 年 11 月 1 日(火) 府中市日新町
- ・平成 17 年 11 月 12 日(土) 府中市南町(観察会)
- ・平成 17 年 11 月 17 日(木) 府中市小柳・日新町
- ・平成 17 年 11 月 19 日(土) 府中市押立・小柳町
- ・平成 18 年 2 月 18 日(土) 府中市教育センター(分類同定講座)

3. 調査対象地域

調査範囲は調布市、府中市、国立市の 3 市を中心とした多摩川中流域左岸の低地帯とした。この地域は、かつては水田など田園景観が広がる地域であり、都市化が進行した現在でも断片的に水田や用水路が残る地域である。

4. 現地調査及びとりまとめの方法

現地調査は「府中の植物を記録する会」のメンバーを主体として数名から 10 名ほどで実施した。

① 分布確認調査

各回ごとに調査地域を設定し、調査票に現地で確認できた植物種名を記入し、1/5000 程度の地図に踏査ルートを記入した。植物の採取は基本的に行わず、花や実のついている個体については、デジタルカメラを用いてできうる限り写真撮影を行い証拠とした。調査は 1 グループ 2～数名で実施し、現地で同定の困難な植物については最小限の標本を持ち帰り、室内で同定作業を行い、種名を調べた。

② 植物観察会

分布確認調査を実施した場所で、植物に興味のある市民や学生を対象に観察会を実施し、多摩川中流の田園地域の植物を中心とした自然について理解を深めてもらうことに努めた。

③ とりまとめ

室内でデータの整理及びリスト作成を行った。現地調査で確認した植物種名についてリストを作成した。

5. 結果及び考察

調査結果の一覧表を巻末に付す。和名、学名、配列は、植物目録 1987(環境庁、1988)に準拠した。

2 年間の調査において、115 科 632 種の植物が確認された。

この種数は、今回の調査範囲が多摩川流域のかつての田園地帯ということで、多摩川の土手のデータをほとんど含んでおらず、現在はその多くが住宅地などの市街地に

なっている。このような都市的な環境であることを考慮すれば、確認された植物種数かなり多いものと考えられる。

確認された植物種の傾向としては、路傍や造成地、空き地にみられるような植物が多いが、タデ科やミソハギ科、ゴマノハグサ科、オモダカ科、トチカガミ科、ヒルムシロ科、ミズアオイ科、イネ科の植物などで、水田や畦、用水路など田園環境を生育地とするような種も多く確認することができた。

(1) 絶滅危惧種

また環境省のレッドデータブック、東京都のレッドリストに挙げられている植物としてはコヒロハハナヤスリ、コギシギシ、サクラタデ、レンリソウ、アリアケスミレ、ミズハコベ、コウガイモ、ミズタカモジ、ミノボロなどが確認された。

これらの種類には以下の示すように環境省VU種と東京都のA、B、Cランクの種が含まれており、その基準は以下のようなものである。

環境省VU：絶滅危惧Ⅱ類。絶滅の危険が増大している種

東京都

Aランク：絶滅の危機に瀕している種

Bランク：絶滅の危機が増大している種

Cランク：生息環境の変化によりAランクやBランクへの移行が危惧される種

なお上記の東京都レッドリスト（A～Cランク）種については、都内（島嶼を除く）のいずれかの地域で掲載されているものをすべて記載した。

確認できた絶滅危惧種の概要と、確認地点は以下のとおりであった。

・コヒロハハナヤスリ (*Ophioglossum petiolatum*)

コヒロハハナヤスリは東京都のレッドリスト掲載種であり、東京東部でCランク、東京西部でAランクに指定されている。東部地域では墓苑などに稀にみられるとされている。曾根（1982）によると、府中市内では四谷、是政、押立などの多摩川土手に小群が分布していたが、絶滅と断定することはできないが、産地において生存が認められなかったとされており、当時から絶滅が危惧されていた植物であった。今回の生育確認調査で府中市の四谷で生育しているのを確認し、府中市において絶滅を免れ、現在も生育していることが確認された。

・コギシギシ (*Rumex nipponicus*)

コギシギシは環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類（VU）、東京都のレッドリストでは東京東部、西部ともにAランクとしてリストされ、水田雑草として湿地に生育しているとされている。調査地内では府中市矢崎町の水田畦で曾根伸典氏によって1983年3月に分布が確認されている（飯泉・曾根1983）。今回の生育確認調査によって、コギシギシが水田の残る地域にまだかなり生育していることが確認された。府中市分梅町、日新町、是政、矢崎町、南町、本町で記録された。

・サクラタデ (*Persicaria conspicua*)

サクラタデは東京都東部において、湿地などに生育地が限られているために減少している種物としてBランクとして記載されている。曾根（1982）による府中市産野生高等植物目録においては稀産種とされており、当時、押立町や四谷などにわずかな自生地があると

されている。今回の生育確認調査によって府中市小柳町、四谷、南町で分布が確認できた。

・レンリソウ (*Lathyrus quinquenervius*)

レンリソウは東京都の西部でBランクでレッドリストに掲載されている。曾根(1983)の府中市の記録によると多摩川土手に生育しているとされている。今回も多摩川の堤防近くの草地で分布が確認された。

・アリアケスマレ (*Viola betonicifolia* var. *albescens*)

アリアケスマレは、東京都東部でBランクでレッドリストに掲載されている植物である。府中市の植物リストには掲載されていない植物である。府中市押立町、小柳町、分梅町、国立市泉、調布市上石原で生育を確認した。アリアケスマレは栽培されることがあり、確認されたものの多くは栽培起源の可能性がある。

・ミズハコベ(*Callitriche palustris*)

ミズハコベはアワゴケ科の植物で、東京都のレッドリストでは東京都西部でAランクとなっており、生育地の減少が指摘されている。

・コウガイモ(*Vallisneria denseserrulata*)

コウガイモはトチカガミ科の水生植物であり、東京都のレッドリストによると、東京都東部、西部ともにAランクに指定された絶滅危惧種となっている。府中市の植物目録(曾根1983)によれば、府中市の四谷の用水路に生育していたが、水路の改修によって姿を消したとされ、当時は府中市では絶滅の可能性が示唆されていた。今回の生育確認調査により、府中市住吉町と国立市谷保において生育が確認された。

・ミズタカモジ(*Elymus humidus*)

ミズタカモジは環境省のレッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都のレッドリストにおいて東京都西部でAランクの絶滅危惧種に指定されているイネ科植物である。府中市の植物リストには掲載がないが、当時生育していなかった否かについては、分離同定の難しい分類群であるので、標本などによる確認が必要と考える。今回の生育確認調査では春季の耕作前の水田で生育が確認され、府中市日新町、是政、本町と国立市泉で記録された。

・ミノボロ (*Koeleria cristata*)

ミノボロは東京都東部においてCランクに指定されているイネ科植物である。今回の生育確認調査で、多摩川の土手の草地に生育しているのが確認できた。

(2) 外来種

今回調査を行った多摩川中流域の調布市、府中市、国立市は、近年宅地開発や道路造成工事などで急激に多摩川周辺の水田や畑などが減少している地域であり、その開発に伴い水田などの田園地帯で見られた植物の減少や、都市化が進むことで外来種が増加していることなどが伺われた。

外来種は、ハゼランやアメリカスマレサイシン(パピリオナケア)、オオキンケイギク、オカタイトゴメ、ハナカタバミ、ムラサキツユクサ、トキワツユクサ(ノハカタカラクサ)、マルバシヤリンバイ、ピラカンサ、ナガミヒナゲシ、ブラジルコミカンソウなどが確認され、このなかには庭や公園などへの園芸起源の外来種や逸出種が多くみられた。これは今回の調査対象地域のほとんどが住宅地となっており、そこからの

逸出が多いためと考えられる。

過去の府中市の記録では未記録の外来植物も出現しており、また稀産とされていた外来植物が普通に見られるようになってきていた。

(3) 在来種の生育環境

上記の水田などの絶滅危惧種が確認された地点も、周辺は宅地のミニ開発などが進み、わずかに残された水田やその畦、用水路周辺であり、その植物の多くが多摩川周辺の低地、水田環境に依存する種であった。

また新興住宅地周辺よりも、古くから存在していた住宅地域の敷地周辺や溝、道脇などに、農村環境に見られるような在来種が多く見られた。

以上のようなことから考えると、この地域に見られる国レベル、都レベルの絶滅危惧種や古くから身近な植物として見られた在来種などの生育環境として、水田や用水路などが重要であるといえよう。市街地化が進行しているが、多摩川周辺のエ地地帯のこのような小面積であるが、貴重な生育場所となっている。さらに、今回の調査地域ではそのほとんどが住宅地などの市街地であり、このような環境では、園芸種などを植栽している管理された環境が多く、野草（雑草）の生育する環境が少なくなっている。そのような場所では、駐車場や集合住宅地周辺のあまり手入れされていない空地などが、これらがわずかに生育できる場所となっていた。

6. 植物分類同定講座

分布確認調査の調査員の資質の向上を目的として、植物分類同定講座を3回実施した。

(1) 第1回植物分類同定講座

第1回植物分類同定講座は2004年10月11日に稲城市百村において、宮崎卓氏を講師に招いて実施した。この講座では分類の難しいシダ植物の同定法を学んだ。講座で観察できたシダ植物は39種であった（表1）。

表1 第1回分類同定講座で確認されたシダ植物

スギナ	ミヤマイタチシダ	ミドリヒメワラビ
ワラビ	オニヤブソテツ	フモトシダ
オクマワラビ	オオイタチシダ	オオバノイノモトソウ
ミゾシダ	ヤマイタチシダ	ヤマヤブソテツ
リョウメンシダ	オオベニシダ	ハリガネワラビ
テリハヤブソテツ	ヘビノネゴザ	イワガネソウ
ドウリョウイノデ	イヌワラビ	ナライシダ
アイアスカイノデ	ゲジゲジシダ	オオカナワラビ
アスカイノデ	ヤワラシダ	カニクサ
オオタニイノデ	ミサキカグマ	
ミウライノデ	トラノオシダ	

サイゴクベニシダ	タチシノブ
オシダ	フユノハナワラビ
フジオシダ	シケシダ

(2) 第2回植物分類同定講座

第2回植物分類講座は2005年10月15日に高尾山において、前回に引き続いて宮崎卓氏を講師に招いて実施した。この講座ではシダ植物とヤブマオ類の同定のポイントについて学ぶとともに高尾山の植物全般についても観察を行った。シダ植物ではヌリワラビ、ハカタシダ、セイタカシケシダ、オニイノデ、イワトラノオ、マメヅタ、イヌシダ、クモノスシダ、キヨスミヒメワラビ、オオバノハチジョウシダなどが、ヤブマオ類にはコアカソ、クサコアカソ、オオバコアカソ、オオメヤブマオ、ヤブマオ、メヤブマオを観察することができた。

(3) 第3回植物分類同定講座

第3回植物分類同定講座は2006年2月18日に府中市教育センターにおいて、勝山輝男氏を講師に招いて実施した。この講座では分類の難しいスゲ属植物の識別ポイントを学んだ。まず、スゲ属の形態についての概説を学んだ後、府中市に生育している可能性のある種類について、種類ごとに特徴や近縁種との見分け方などを知った。取り上げられた主なスゲ属植物は、マスクサ、ヤブスゲ、メアオスゲ、ノゲヌカスゲ、エナシヒゴクサ、ヒゴクサ、ジュズスゲなどであった。

* 参考文献

府中市教育委員会、1982. 府中市自然調査報告—第12次調査—.

府中市教育委員会、1983. 府中市自然調査報告—第13次調査—.

環境庁、1998. 植物目録1987、大蔵省、東京.

環境庁、2000. 改訂・日本の絶滅の恐れのある野生生物—レッドデータブック—
8 植物I (維管束植物)、自然環境研究センター、東京.

東京都環境保全局東京都の保護上重要な野生生物種1998年版、東京.

「^{た ま がわちゆうりゆう}多摩川中流^{でんえんちいき}のかつての田園地域における

「^{きしょうしょくぶつ}希少植物^{せいいくかくにんちようさ}の生育確認調査」

(研究助成・一般研究 VOL. 28-NO. 166)

著 者 ^{ほしの}星野 ^{じゆんこ}順子

発行日 2007年3月31日

発行者 財団法人 とうきゅう環境浄化財団

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷1-16-14 (渋谷地下鉄ビル内)

TEL (03) 3400-9142

FAX (03) 3400-9141